

農人伝

女性が活躍するサボテン専科経営

野末 信子 ②

静岡・浜松市

実家は、今住んでいる都田町と同じ浜松市でも、ここから8キロほど北の山あいにある滝沢町。生まれたのは1952年(昭和27)、長女です。

父は最期もミカン園

やはり農家で、最初は麦やサツマイモを作っていました。私が小学生の頃から温州ミカンを植え始めました。

近くに温州ミカンで有名な三ヶ日町がありますが、滝沢町もそれに負けない高品質のミカンができたんです。家の周りから

幼い頃、父と



高度成長期の激変の中で

農業に賭ける父の姿を見て育つ

始め、ブルドーザーで山林を開墾し、ミカン園を拡大していきましました。

父は次男でしたが、長男の兄が戦死し、祖父も50代で亡くなり、家を支えなければという使命感が強い人でした。

ミカンに賭けたんでしょうね。剪定やら肥培管理やら、研究して丹精込めて。亡くなる前、

病院から外泊を許され家に戻っても、ミカン園の周囲の細葉刈り。最期もミカン園を眺めながら逝きました。

「いい農家に嫁ぐ」ルールに

小学校は1学年1学級の小さな学校で、そのまま地元の小中学校に進みましたが、高校に進学したのは、小学校で同級だった女子生徒19人のうち、私を含め

当時の私は、特に強い思いもなく、紡績工場でも良かったんですけど(笑)。父が高校進学にこだわりました。父の頭の中では、「高校を出て農協に勤め、いい農家に嫁に行く」というのが、私に敷いたルールだったみたい(笑)。

でも大変でしたよ。高校は、自宅から15分近く離れた細江町。家からバス停まで徒歩30分。そこからバスで1時間、さらに鉄道を乗り継いで、ようやく登校。なので、部活動にも入れず、制約を感じながらの高校生活でした。

今思えば、ちょうど小学6年のときが東京オリンピック。新幹線が通り、高度経済成長期で急激に地域が変わり始めていました。浜松市はスズキやヤマハの本拠地ですからね。サラリーマンが増え、同時に農地が荒れ始めた時期でもあったんですよね。

構成 神田みどり